

神様達の聞く音色

## 螺旋の骨組み

その日の空はどんよりとした雲の多い灰色の空だった。

この神様は、ぐるぐる、ぐるぐる、巻いていた。

ぐるぐる巻いていたけど、

同じところを重ねることはなく螺旋を描くように巻いていた。

ぐるぐる。ぐるぐる。

綺麗なやさしいカーブを維持しながら。

この神様の隣には、別の神様がいて、

その螺旋の骨組みに貼る光を通す紙を静かに裁断する。

ぐるぐる。ささっ。ぐるぐる。ささっ。

何を作っているのかわからなかったが、5日後に1つできあがるらしい。

苦勞して出来上がった作品は、見えない夜でも人が迷わないように玄関の軒下で人を迎え入れる。

この神様は、少し遠くの町に住む神様の作る紙でこの螺旋の骨組みを覆い綺麗な光をともらせたいと話していた。

神様の神様を呼ぶ道具

これ。あれ。それ。

いろんな形を作る神様。

自分の形を探し求め。

形が決まったけど、まだ白い。

真っ白な形。

また、これ。あれ。それ。

いろいろ塗る。

まだまだ塗る。

決まらない。。。。

カラン、コロンと音をたてると、神様の神様が現れる。

これでいいよと教えてくれる。

神様の神様が決めてくれた形かな。

## 石の香り

この地域では、定期的に爆発音がする。

どういう音が覚えてないけど、爆発音。

ゴロゴロ。ゴロゴロ。

大きい石も、小さい石も。

白くて柔らかい石もあれば、硬い石もある。

この神様も物知りの神様。

政治、経済、歴史、文化、芸術。

神様のお友達は、他の国の神様たち。

白い石からいろんな形を作る。

ある時、ツルツルでまんまるでピカピカの玉を作った地域の別の神様。

このツルツルでまんまるでピカピカの玉は、悪魔を寄せ付けない。

悪魔がいなくなったから、

神様は他の少しザラザラした玉を作ってみた。

小さくて手のひらでコロコロ転がせる玉。

手の温もりで石から香りが広がる不思議な玉。

コロコロ。コロコロ。

この不思議な玉にはおへそがある。

あっ。雷みたいな爆発音が聞こえた！

おへそが取られないように、不思議な玉のおへそを隠そう！

## 土の錬金術

この神様の家は近くて遠い。

入り口には夜空から降り立った山羊座の星が輝いている。

神様は物静かに今日も、こねこね。ぐるぐる。

この神様は南の海の近くの土と北の海の近くの土を混ぜて、

どろどろした粘土で形を作る神様。

神様は静かに家の裏に連れて行ってくれた。

見せてくれたのは、草木などの灰。

灰色の灰。

神様しか知らない方法で、灰色から色を作り出す。

キラキラ。めらめら。

めらめら。キラキラ。

キラキラ。めらめら。

めらめら。キラキラ。

神様は火の神様とあまりにも仲が良すぎるから、

まつげもこげてなくなってしまった。

この神様がまつげだけですんでいるのは、この神様が火の神様だけでは

寂しそうだということで招待した優しい笑顔の粘土像。

でも、キラキラ。メラメラ。

終わると静かに自然に帰っていく。

なかなか会うことができない粘土像。

あの森にいるかな。

赤黒い月

みんな見たことがない月が出た。

どこから？

洞窟の奥から。

光がないのに、どうやって？

緑色の石が教えてくれる。

黒い粉で黒い洞窟から赤黒い石を掘り出す。

喉が渴いてるから、水をやったらすぐに、削る。

ガサガサ。ガサガサ。

ヨーロッパには耳を削ぎ落とした芸術家がいるらしい。

この神様は、耳は削ぎ落とさない。

手の温もりが伝わる幾何学的なかたち。

四角と丸。

満月と新月が同時に見える赤黒い月のかたち。

神様は天体望遠鏡で夜空の月を覗き込むように、

この赤黒い月の表面を観察する。

ガサガサ。ガサガサ。

この神様は、宇宙の月とも洞窟から出てきた赤黒い月とも交信ができる

唯一の神様らしい。

今度、赤黒い月に住んでいると言われるウサギに手紙でも書こう。

## 熊の住む森と熊の住まない森の違い

最近、街で熊に遭遇したという新聞記事をよく目にする。

熊も森に十分なご飯がなくて、

大変な思いをして街にご飯を探しに来る。

本当は森の美味しいご飯を食べてもらいたい。

でも、今すぐには難しいから。熊に少し休んでもらいましょう。

森にはグネグネした木とピーンとまっすぐな木が生えている。

グネグネした木は硬くて葉っぱが広くて、遅く成長する木。

ピーンとまっすぐな木は柔らかくて葉っぱが細長くて、

早く成長する木。

ピーンとまっすぐな木がどんどん成長するから、グネグネした木に太陽の光がとどかない。

太陽の光がとどかないとグネグネした木が成長せず、木の実ができないからそれを食べる動物のご飯がとれなくなる。

そうか、それでこの熊はご飯が無くなってしまったのか。

残念だ。

この神様はそんな熊の苦勞を知っているから、熊のために椅子を作ってあげようと考えた。

ガンガン。バリバリ。

なんと神様、一本の丸太から、

電気工具も使わずに椅子を作ってしまった。

どこかで見覚えのある椅子だと思ったら、歪んだ椅子だ。。。

歪んでいるのか。歪んでいるように見えるのか。

あっ、以前、見た有名な絵画に描かれていた椅子を思い出した。

## 米ぬかの色

茶色い米ぬか。

地味な色の米ぬか。

だから派手な色をいつも恋しく思っている。

もちもち、ネバネバ。

今日も海に出た男たちの粘り強い戦いが目に浮かぶ。

美しい海での戦いを終え、

家族に大漁と無事な帰還を知らせる豪快で綺麗な旗の数々。

このねばり強さは、陸で収穫されるお米に由来するのか。

静かな部屋に風が入り込む。

ひらひら。ひらひら。

青。赤。黄。緑。ピンク。オレンジ。ゴールド。黒。

米ぬかで縁取りされた絵柄にぼかしが染み渡る。

じわり。じわりと。

時が来たら米ぬかはさらりと姿を消していった。



## 影の縁結び

近くに大きな川がある。よく洪水を起こす暴れる川。

橋をかけても、洪水で流されてしまうから、命を犠牲にして人々の安全を願った娘たちがいた。

今は誰も知らないかもしれないけど、

その娘たちの魂は、川の底に宿っている。

みんなの知らないところで、その魂の化身が小さな石を集めて、あんな形やこんな形を彫刻している。

この化身は美意識に繊細で、私たちにはわからない美しい形を見つけるのが得意。

美しい形で着飾るのも好きだから、見つけたら体につけて自分を守る習性がある。

あんな形やこんな形。

最初は何の形か、それが美しいのかもわからない。

でも、この神様も美意識が高く、それぞれの形を何かに、

特に人に見立てる能力がある。それが誰で誰と相性がいいかがわかる。

これとこれ。あれとあれ。それとそれ。

これとあれ。あれとそれ。それとこれ。

毎日、毎日、見定めては、組み合わせ。

組み合わせせても、最高の相性を見つけ出すために、

とっかえひっかえする毎日。

あまりにもたくさんあるから、ガサガサ、ごそごそ、音が聞こえる。

人々の人生はここで決められているのかもしれない。

どこにおさまるか。。。

この神様にゆだねよう。

## 無数の糸の奏でる景色

あの草、この花、その木。

いろんな植物から色が出る。

自然の色が一本一本の糸に染められる。

長い長い作業を続けた神様の指先は、曲がってしまった。

それでも、一本一本、織り機に縦糸を準備する。

1本.

2本.

3本.

4本.

.

...

.....

838本. 839本. 840本.

ここから、あそこをとおして、そこまで。

カラカラ、コロコロ。

準備だけでも大変な作業だけど、神様はもっと難しいことをしたがる。

縞だけではなくて、格子模様。

ガタガタ機織りの音が聞こえる前に聞こえる音。。。

植物の色が織り込まれた景色。

## 陸にあがった魚

好奇心の強い魚がいた。

この魚は近くに金魚の形の島があるという伝説を  
遠くから飛んできた鳥から聞いた。

魚だから見たくても陸に上がったことがないから、我慢していたけど。  
ある時、台風が勢いよくこの魚を一瞬にして空高くに舞い上げた。

魚は台風が強くて怖かったけど、ふわっと空に飛び立つことができ、  
それまで見たかった島を空から見ることができた。

確かにその島は金魚の形に見えた。

その島を上から見たものは縁起がよくなるという言い伝えがあったか  
ら、遠くでその魚が空に舞っているのを見た人たちの間で、  
すぐに評判になった。

ある時、町の人が遠くの町で、

竹と紙でできた光るお神輿を見て帰ってきた。

あまりにも綺麗だったから、町内の人と考えて、この好奇心が強くて縁  
起のいい魚を大きくしてお神輿に乗せてねり歩いた。

町人は、それだけでは寂しいからと手分けして、竹と紙でその魚を真  
似た形の提灯を作って、町中の軒下に飾った。

あまりにも評判が良かったから、この魚は水に帰らず、

一生、陸で生活をするようになった。。。

## 永遠の六角形と水平線

稲刈りのあとはレンゲを育てる。

ここからあそこまで。

遠くまで飛んでいかないといけないから、

みんな家の中に集まってぬくぬくぬくぬくしている。

十分暖まったら、レンゲの花に向かって飛んでいく。

こっちに2キロ、あっちに2キロ。

ブンブン。ぶんぶん飛んでいく。

蜜をもって家に帰ってきても、大きな虫やカエル、スズメバチが家の近くで待っているから油断ができない。

でも、優しい神様がそういった天敵を退治する罌を作ってくれたから、安心して帰ってこられる。

毎年、環境が変わるから、取れる蜜の量も違う。

そんな貴重な蜜だから、

こぼれないように水平にして大事に保管しないとイケない。

多い時もあれば、少ない時もある。

冬にご飯がなくならないように、

無限に増やせる六角形の作り方を本能で覚えている。

算数や数学は勉強したことがない。

そのまま貯蔵庫に入れただけでは、安全に保管できないから蓋をする。

蓋をするとお酒みたいに熟成されて美味しくなる。

あまり貯蔵庫がいっぱいとみんな安心して働かなくなるから、

優しい神様がさらっとハチミツを隠してしまう。

働くのが好きだから、

また明日からもこっちに2キロ、あっちに2キロ飛んでいく。

雨が乾かす素材

唯一その日だけ、雨が降った。

12人の神様に会いに行ったけど、

この神様に会った日だけ雨がざ～ざ～降った。

神様は静かに、黙々と黒色や赤色の素材を塗っていた。

うす～く、そ～っと、そ～っと。

神様は雨が降る日はすぐに乾くから作業がしにくいと言って、

除湿機能を使って乾くのを遅くしていた。

この素材の元々の植物の名前は、

Toxicodendron Vernicifluumというらしく、

毒を意味するToxicという単語がその名前の中に入っている。

なかなか特殊な素材。

外国人が欲しがっていたキラキラ光る小さな素材も扱うから、

神様はそれが飛んでいかないように息を潜めて少しずつ作業を進める。

あまりに集中しているから、周りに目をやると

やわらかい形がこの部屋には無数に点在しているのに気がついた。

さっき、なんとなく見られていた気配があったのは、このせいかな。

何も塗っていないものもあれば、顔が塗ってあるものもある。

いろんな表情が浮かんでくる。

雨の日だから喜ぶ笑顔もあるみたい。

夜に洗濯をして勝手口から家に入ろうとしたら、  
黒い影がひらりと入ってきた。  
数日前に家の裏で見た黒いイモムシが成虫になった姿だろう。  
あっ、そういえば、神様たちみんなラジオ聞いてたな。。。

この物語は実在する人物をもとに制作したフィクションです。



